

# 胃・十二指腸潰瘍・・・抗生物質で完治できる

## 胃・十二指腸潰瘍・・・抗生物質で完治できる

市川治療室 No.91/1998.05

米では生涯に10人に1人が消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍)を患う。  
1980年代以降、消化性潰瘍の大部分は細菌感染が主な原因であることが  
多くの研究で証明され、医学会でやっと認められつつある。

しかし、それでも米の医師は新しい変化に対応するのがスローで、  
従来のままの対症療法を行っている医師もいるとか。今回はその問題を追ってみる。

原因は細菌感染

これまで胃潰瘍の原因は主に精神的・肉体的ストレスや胃酸の過分泌などによるものと  
考えられてきた。そのため、心身のストレスを取り除いたり、胃酸の分泌を抑える制酸剤など  
で治療が行われてきた。

しかし、これらの治療法で一時は治っても、何週間、何ヶ月後に再発し、  
胃潰瘍の症状が再び返している。

ところが、82年、従来の胃潰瘍に対する考えや治療法を根本的に変える発見があった。  
オーストラリアの2人の医師、J・ロビン・ウォレンとバリー・マーシャルは、胃潰瘍患者の胃液にはほとんど必ず  
とっていいほど、らせん状のコルク抜きのような形をしたヘリコバクター・パイロリ(以下、H・パイロリ)  
と呼ばれる細菌が存在しているのに気づいた。胃が健康な人はこの細菌はいない。

そこで2人の医師は「胃・十二指腸潰瘍の原因は胃酸ではなく、H・パイロリという細菌だ」  
と結論を下し「細菌を撲滅しない限り、また再発する」と主張した。  
細菌感染が原因であれば、抗生物質で完治できるのだ。

しかし、胃や十二指腸が細菌H・パイロリに感染しているからといって必ずしも  
胃潰瘍になるわけではない。

当時、2人の医師による『細菌感染』理論は一般に嘲笑で迎えられたという。  
それまでは多くの医師が胃潰瘍の発生は心身のストレス、胃酸の過分泌、タバコ、アルコール、  
刺激のある食べ物の摂取などに関係があると信じており、  
また患者の腹部の痛みは胃酸の分泌を抑える薬や制酸薬で症状を改善していた。

更に、医学会の常識では「H・パイロリを含めいかなる細菌も、正常な胃で毎日分泌される  
半ガロン(約1.9リットル)の胃酸の中で生存することはできない」というもの。

バリー・マーシャル氏は、何とか同僚の医師らを説得しようと、自らH・パイロリの細菌の入った  
飲み物を飲んで実験に挑んだ。同医師は2週間後、胃潰瘍の激しい痛みを教わられた。  
従来の制酸薬による治療で効果は現れたが、抗生物質での治療はH・パイロリを撲滅し、  
同医師は胃潰瘍を二度と再発しなかった。

しかし、これだけやっても同僚の医師を納得させることができず、大部分の消化性潰瘍  
の原因がこの細菌であることが認められるには多くの証明と年月がかかった。

いまでも根治療をしない医師が多い

80年中期以降の研究では、胃潰瘍の73%、十二指腸潰瘍の92%で  
H・パイロリが存在することが証明された。

「代替医学ガイド」の著者、イサイドア・ローゼンフェルド医博は「現代的かつ効果的な消化性潰瘍の  
治療法は、例えばこれがアスピリンや抗炎症剤が原因で生じたとしても、  
H・パイロリを追い払う10~14日の抗生物質の投薬計画を始めることです」と。

しかし、今日においても、患者はこの細菌テストをされなかったり(簡単な息や血液検査  
でできる)、抗生物質による治療も行われておらず、「患者の中には症状改善のための治療  
は受けているが、根治療を受けていない人がいる」と話している。

.....

文中に出てくる細菌、H・パイロリはH・ピロリとも言われています(読み方の違い)  
パリロリ(ピロリ)とは胃の幽門(胃が腸に続く部分)のことで、  
ヘリコバクター・パイロリ(ピロリ)とはそこに多く見出されるらせん菌という意味です。  
H・パイロリ(ピロリ)はヒトからヒトへと経口感染するので、家族の中にも広がります。